



令和7年度 幼児教育研修（新人研修：人権）

「子どもの人権を尊重する保育とは」

日時：令和7年9月25日（木）15：00～17：00

会場：生涯学習センター

講師：東京家政大学 教授 小櫃 智子 氏

## 研修のねらい

子どもも保育者もいきいきと保育するために、子どもの人権を尊重する保育を考え合う

## 不適切な保育を未然に防止する

なぜ不適切な保育に至るのか？

### 保育士の業務負担の問題

保育士不足、保育士の配置人数、子どもの命と将来に責任を持つ仕事内容、ノンコンタクトタイムの不足 等

### 保育士一人一人・園組織の問題

子どもの人権を尊重する保育についての意識や認識の不足、保育士としての専門知識・技術の不足、保育士同士のコミュニケーションの不足、自らの保育・自園の保育を振り返り考える機会の不足 等

人権擁護のためのセルフチェックリスト  
（全国保育士会）

### 良くないと考えられる関わり

子ども一人一人の人格を尊重しない関わり

物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉がけ

罰を与える・乱暴な関わり

子ども一人一人の育ちや家庭環境への配慮に欠ける関わり

差別的な関わり

不適切な保育を未然に防ぐために、「人権擁護の観点から望ましくない関わり」をしていないか？

**日々の保育を振り返ることが大切**

## あたりまえの日常を振り返ってみる

あたりまえの中に潜む“不適切な保育”につながる芽を見付ける

事例を読んで感じたこと

- 日常は流れていきやすい → 立ち止まって考える時をつくることが必要
- あたりまえには気づきにくい → 同僚とともに振り返ることが大切

### 事例 おむつ替え、黙々と行っていませんか？

0歳児担任がA子のおむつ替えをしようとしているところに、担当のB子も泣いてすがってきています。担任は早くおむつ替えをしようと黙々と替えています。A子はされるがまま、何が起きたのか実感のない表情でした。

引用：『保育の友』2021年7月号「保育をふり返ることの意味」  
—あたりまえの日常だからこそ立ち止まって考えたい事例—



つい大人のペースで進めてしまうことがあった。忙しいと子どものペースを見落としてしまうので、意識する。

子どもに今からすることを伝えたり、話しかけたりして心地よくなるようにすることが大切だと感じた。

保育という営みにおいて、保育者が子どもをどう捉えるかということは極めて重要

子どもへの関わりは、「子ども観」「保育観」が大きく影響する  
無意識の中にある「子ども観」「保育観」にも気づくことが大切



一人の人として尊厳ある存在  
自ら育とうとする存在

## 子どもの人権と保育

### 4つの原則

- ・命を(いのち)守られ成長できること
- ・子どもにとって最もよいこと
- ・意見を表明し参加できること
- ・差別のないこと

### 4つの柱(権利)

- ・生存(生きる権利)
- ・発達(育つ権利)
- ・保護(守られる権利)
- ・参加(参加する権利)

“子どもが子どもらしく生活すること”  
ができる世界を保障する



# 映像「水とふれあう子どもをみてみよう」



室内の水道で手洗いかから水遊びになっている2歳児。そのうち、子どもたちが集まってきて一緒に遊びだし、床が水浸しになる。最後は見守っていた保育者と子どもたちで雑巾で拭いて片付けていた。



- 子どもは何を面白がっているのか？  
→水の勢い、水の量、貯まってく様子等。
- どこで止める？  
→「やめてほしい」という思いの一方で、「楽しそう」という思いを大切にしたい。止めるタイミングを間違えてしまうと、子どもの思いをつぶしてしまうことになる。その子の行動をちょっと見守ってみる。

(前略)教育の前に、先ず子どもに引きつけられてこそ、子どもへ即(つ)くというものである。子どもにとってうれしい人とは、こういう先生をいうのであろう。

(引用・倉橋惣三『育ての心(上)』昭和11年)

## 今なぜ、子ども主体の保育？

- ・子ども主体とは、子ども一人一人の意思が尊重され、自分で意思決定をし、行動する
- ・目まぐるしく変転する予測困難な社会
- ・複雑で様々な課題を解決する力が必要
- ・乳幼時期を主体的・協同的に過ごすことの大切さが研究で明らかに
- ・令和5年4月こども家庭庁 発足「子どもまんなか社会」へ「こども基本法」施行

### こども基本法

全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができると社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としている

## 権利保障としての性教育を考える

子どもの権利としての性教育を実施する  
性教育は大人の価値観が影響しやすい  
おとな自身の人権、性の価値観をみつめることが大切  
性別にかかわらず、その子らしさを大切に  
性には多様性があることを認識し、大切に

### 子どもの心と体を大切にすかかわり

- 体の自己決定権は子どもにある
- 「NO!」という権利
- 同意の大切さ
- 相手も同じ権利を持っている



### 子どものプライベートゾーン(口、水着で隠れる場所)を守る

プライベートゾーンは自分だけの大切な場所

- ・人前で見せない
- ・勝手に見ない



見られたり触られたら「叫ぶ」「逃げる」「知らせる」  
+「あなたは悪くない」と伝える

### 保育はチームで行うもの

チームは、「子どものために」を基本として、協力しあう関係になりましょう  
子どもや保育のことを楽しく語り合ひましょう  
難しいこと、たいへんなことは助け合ひましょう  
子どもや同僚にあたたかなまなざしを向けましょう



## 研修生の報告書より

○不適切保育のニュースを見て、誰もが相談し合える空気感で、どんな時でも協力し合えていれば不適切保育は防げたのではないかといつも思っていた。と同時に、事例を見て自分はやっていないか、と振り返るきっかけにもなった。時間に限りがある中で全てのことを完璧にすることは難しいが、子どもを何よりも第一に考えていきたい。

○研修の中で、子どもが好きになるのはどんなことでも一緒に楽しんでくれる先生であるという言葉がとても印象に残った。保育をする中で、危険なことや事故に繋がりそうな際はつい否定的な言葉を使ってしまいそうになるが、そうではなく、子どものしたいこと、興味を抱いたことを一緒に楽しみ、面白がることで、子どもが遊びの中で様々な学びや体験ができることに繋がるのだとあらためて学ぶことができた。